



～春！日本とイギリス～

日本でもイギリスでも、春は「再生」と「新しい始まり」の季節だと言われています。でも、その理由と春の祝い方は、両国で異なっています。今回の大田区絵日記では、日本とイギリスでの「春」の違いと共通点を紹介したいと思います。

日本

日本では、各地で梅や桜が開花し、春の花が咲き、ウグイスなどの鳥の鳴き声が聞こえてくると、春の訪れを感じます。

しかし、その中でも特に春を感じるのは、やはり桜の開花と「お花見」だと思います。

初めて来日した頃は、桜が満開になる時期を示す「開花予想」というものがあることに驚いたのですが、日本に住んで何度か春を経験していると、この予想がとても役に立つことがわかってきました。

美しくて温かい日のある春が大好きですが、私を含め多くの人にとって、春はもう一つの意味で知られています...それは、花粉症ですね！たとえコロナ禍でなかったとしても、私はマスクのまま生活していると思います。

自然界での「新しい始まり」や「成長」だけでなく、日本では、4月が新年度の始まりでもあります。多くの人にとって職場や学校での「新しい始まり」となり、新しい人と出会ったり、新しい役割を担ったりしなければならない時期です。

忙しくてストレスの多い時期でもありますので、体調に気をつけて無理をしないようにしてください。

東京都



4月の平均気温

でも3月にはこれより温かい日があったので、今年の4月は例年より温かいかもしれませんね！

プチ英語

くしゃみをするを表すオノマトペは、日本語では「ハクション」ですが、英語では"achoo"「アチュー」と言います。また、誰かがくしゃみをしたときに、“Bless you”「ブレスユー」と言います。「お大事に」という意味に近いです。

イギリス

日本と同じく、イギリスでは、春の花（スノードロップなど）や木の花が咲き始め、鳥の鳴き声などが聞こえてくると春の訪れを感じます。



イギリスでは、日本と違い9月に学校や仕事が始まりますが、それでも他の理由から、春は「再生」と「新しい始まり」の時期と考えられています。

まず、春といえばイギリスではイースターが有名です。簡単に言うと、イースターはキリストの復活を祝う行事で、日本語では「復活祭」とも呼ばれています。イースターの正確な日付は毎年変わります。3月21日以降の、最初の満月の後の、最初の日曜日に祝います。つまり、3月か4月に祝われるということです。

クリスマスにサンタがいるのと同じく、イースターにはチョコレートのイースターエッグ（チョコレートで作られた卵）を持ってくるイースター・バニーがいます。イギリスの学校では、伝統を守るために、イエスの話やイースターの本当の意味を子どもたちに教えているのですが、クリスマスと同じように、イースターに行われるお祝いなども本来の意味から離れ、商業的な意味合いが強くなり、多くの店がチョコレートエッグなどのイースターに関連する商品を販売して利益を得ています。

イースターはさまざまな形で祝われます。まず、イースターは四旬節の終わりを告げます。四旬節とは、イエスが砂漠で断食した40日間を記念します。四旬節のとき、多くの人々は、飲酒や喫煙、肉やチョコレートなどの好物を控えます。そのため、イースターには家族と一緒にごちそうを食べたりして、断ち切っていたものを楽しむ人が多いのです。

また、イースターカードを交換したり、チョコレートのイースターエッグを買ったりします。子どもたちは「イースターエッグハント」に出かけ、イースターバニーが隠した卵を探します。

イースターの時期には、多くの学校で2週間の春休みが始まります。また、「スプリングクリーニング」の時期でもあります。スプリングクリーニングは、日本のお正月前の大掃除みたいなものです。

イギリスは、日が短いため、お正月に大掃除をする人はあまりいないと思います。そのため、春は大掃除をして不要なものを捨てるのに最適な季節なのです。

最近、海外で「こんまり」メソッドが流行っています。持ち物を最小限にし、ときめくものだけを残すという考え方に影響を受けている人がたくさんいます。「片付け」を意味する新たな言葉として「KonMari-ing」「Marie Kondo-ing」が使われるようになるほど人気になりました！今年の春の大掃除では、きっとこんまりメソッドを参考にする人が多いでしょう。

今回は、大田区で紹介できるところには行けなかったのですが、春とイースターについて楽しく読んでいただけたらうれしいです。もし、大田区でおすすめの場所があれば、ぜひ教えてください。

